

② ショウガを育てよう

乾燥に注意，連作は厳禁

ショウガは昔から風邪を予防する効果や身体を温める効果など、いろいろな効果があると言われ、料理や保存食として使われてきました。身体を温めてくれる効果などは、新陳代謝を活発にもしてくれるため、ダイエットに利用されることもあります。また、殺菌作用や、健胃作用による食欲増進の効果もあります。さらに、食べるだけではなく首に塗ったり貼ったりすることで咳を和らげるためにも使われてきました。

①畑の準備

植え付けの2週間前に、苦土石灰を1平方メートルあたり100グラムをまいて深く耕します。また、植え付け1週間前に1平方メートルあたり堆肥を2キロ、化成肥料(15:15:15)100グラムを畑全面に施用しよく耕し平うねを作ります。



②植え付け

種ショウガは、芽を2、3個つけて切り分けておきます。うね幅90センチに深さ10センチほどの溝を掘り、中に種ショウガの芽を上に向けて、30センチ間隔で並べます。土をかぶせながら溝を埋め、平らにならし軽く押さえ、たっぷり水をかけます。

③追肥・土寄せ

追肥は、1回目を6月(草丈15センチぐらいの頃)、1平方メートルあたり追肥用化成肥料20～30グラムを、株の周囲に施し、土の表面を指でほぐすようにしながら、土と肥料を混ぜます。追肥後、株元に軽く土寄せをします。2回目は8月中旬頃(草丈30～40センチの頃)、3回目はその1カ月後に同様に追肥、土寄せをします。

④敷きわら，灌水

ショウガは乾燥に弱いので、梅雨明け頃に株元にわらを敷き、土が乾いたら灌水します。

⑤病虫害防除

ショウガは連作すると根茎腐敗病が発生するので、必ず201905 ず新しい畑に植え付ける必要があります。根茎腐敗病の防除のため、梅雨時期以降の発生期に水はけをよくして、被害株は抜き取ります。害虫ではメイチュウ(フキノメイガ、アワヨトウ)が茎に入って枯らすことがあります。

⑥収穫

10月下旬～11月上旬、霜が降りる前の天気の良い日に行います。種ショウガはそのまま残っているので、すりショウガとして利用できます。

(鹿児島市都市農業センター)

平成31年5月9(木) / 南日本新聞